

4月第4週 17日(月)~22日(土)

前週の様子

- 家の人との別れぎわに泣いてしまう子ども、部屋に入るとすぐに泣きやみ、保育者と好きな遊びを楽しむ姿が見られる
- 昼寝がいやで、給食のころから泣いてしまう子がいる
- 新しい部屋や保育者にも慣れ、園生活を楽しむ反面、友だちとかかわり合う中で、衝突が起こることもある

わんこ

- 保育者とかかわりながら、園生活に慣れる
- 園生活のリズムに慣れ、保育者や友だちとのやりとりを楽しむ

主な活動

○室内で遊ぶ

17日(月)

○戸外で遊ぶ

18日(火)

○好きな絵を描く

19日(水)

○バスで港の公園へ散歩に出かける

20日(木)

○室内で遊ぶ

21日(金)

○戸外で遊ぶ

22日(土)

内容

- 食事やおやつのおもてなしに少しずつ慣れ、自分からいすに座ったり、食べようとする
- 保育者に見守られながら、安心して好きな遊びをする
- 園のバスに乗って散歩に出かけ、開放的な気分を味わう
- 保育者に促され、援助を受けながら排泄をする
- 保育者や友だちとかかわりながら、室内や戸外で好きな遊びをのびのびと楽しむ
- クレヨンで自由に絵を描く

環境構成と援助

- 家庭的な雰囲気ですぐに食事ができるよう、個々に言葉をかけ、自分で食べようという気持ちを大切にしながら、子どもの言葉や目での要求を温かく受け入れ、信頼関係を育む。また、個々に合った量にあらかじめ調節しておく
- 布団を見たとき、「まだ帰れない」という不安から泣き叫ぶ子もいるが、保育者のひざにのせたりしながら少しずつ体を休めるよう促していく
- 静的、動的なさまざまな遊びが存分にできるよう、スペースや時間を工夫する
- 園外での開放的な雰囲気を味わえるようかかわると共に、一般道での交通安全に十分注意する
- 保育者も一緒になって楽しむことで、子どもとの距離に近づけるよう心がける
- 子ども同士のやりとりを見守りながら、トラブルが起きたときはすぐ仲介したりして対応ができるようにする
- 好きな遊びをしたり、保育者に紙芝居を読んでもらいながら、楽しく迎えが来るのを待てるよう配慮する

反省

- 昼寝…ドキドキしながらも布団に横になれた子には、スキンシップを図り、安心感がもてるようにした。また、情緒が不安定なためか、寝てもすぐに目を覚まして泣いてしまい、その声でほかの子ども目も覚めてしまった。テラスにごさぎを敷き、遊べるようにすると、泣き声で目を覚ますことがなく、ゆっくり眠ることができた
- 排泄…意欲はあっても、脱ぐのに時間がかかり、思うようにできない子もいた。つなぎのズボンなどは避け、着脱しやすいものを保護者にお願いする
- 遊び…一人ひとりが玩具を持つことで安心して遊んでいる場面が多いので、しばらくは個々で十分手にできるよう、玩具の数を増やした

★ 子どもをまるごと受けとめて ★

一人ひとりの個性や育ちを把握して

「ママ〜!」「おうちかえろー!!」
 4月当初の新入児は大パニック。無理もないですよね。今までは、いつでも振り向けば必ずそこにいたお母さんという「心の基地」がどこにも見あたらないのだから。お母さんとの絆が強い子ほど、大泣きするようです。だからこそまた、大泣きする子ほど安心なのだといえます。安定した基地の心地よさを十分味わえている子は、「一時的」に大泣きして素っ裸になることで、いつの間にかそこに新たに自分の基地をつくってしまうたくましさも育っているからです。ただその「一時的」がどのくらいなのか、2~3日、1週間、1か月…。
 ある年、7月半ばになっても泣いてしまう子を抱え、担当の保育者が、自分のかかわり方に問題があるのではと、ため息をついていたことがありました。うちの園では、保護者の中に卒園児が数多くいるのですが、通りかかった園長がその子を見てひと言、「その子のお父さんは、卒園するまで泣いていたわよ」。そのお父さんは、今や3人の子をもつ、照れ屋でやさしい、そしてりっぱな社会人。保育者もそれを聞いて、あきらめ半分、安心もしたようす。泣ける期間、泣き方にもいろいろな個性があるようですね。

4月は、一人ひとりの個性や育ち、母親との絆を、泣き方ひとつからも察知し、把握する期間。焦らず、その子の悲しみやとまどいすべてをまるごと受けとめてあげましょう。子どもは本能的に感じます。保育者がありのままの自分を肯定するのか、否定するのかを。そして肯定してくれる者に心を開きます。

信頼という心の基地づくりを

でも、子どもだってただ泣いているばかりでは

ありません。泣きながら、この先生は私が泣くとどうしてくれるのかなとためしてみたり、あの子は何して遊んでるのかなと観察したり…。そうこうしながら、自分の好きなもの(心の基地)を園の中に見つけていきます。ぬいぐるみやおもちゃ、水槽の金魚や亀、自分のロッカーのシール、おやつなどの食べもの、特定の保育者などなど。

基地を見つけ、じっくりかかわり、心の安定が図れた子どもは、今度は驚くほど生活の中で意欲的になっていきます。2歳児が、俗に反抗期と呼ばれる「自分で」期とも重なるからなのか、食事面、靴や服の着脱、手洗いなどあらゆる場面で「自分で」をアピールします。この失敗を恐れず、後先を考えない、「自分がやってみる」ことにのみ意義がある「何でもやりたがり期」は、2歳から3歳ころの特有のものようです。もっと大きくなると要領がよくなるからか、相手の思いも考えるからか、自分でできることでも相手の人がやってくればすんわりと受け身に回ってしまいます。

「あの子あんなことしてる、ほくも」
 まわりの子のようすに刺激を受け、2歳児はどん欲に自分でやろうとします。うまくいかずにかんしゃくを起こすことがほとんどでも、懲りずに「自分で」を繰り返します。

特に新入児にとって、園生活は刺激たっぷりです。そして継続児は、しばらくは新入児を「自分より小さい赤ちゃん」と思って、何をしても得意気です。どちらにとっても、互いに大きな刺激であることは間違いありません。

情緒の安定できる心の基地さえもてば、やりたがりの2歳児にとって刺激ある園生活は、家庭と同じくらい魅力的なものになれそうです。

出会いの4月——まずは一人ひとりの子どもの心を温かく受けとめ、信頼という心の基地をつくりましょう。

5月第2週 8日(月)~13日(土)

前週の様子

- 連休明けで、情緒が不安定だったり、新しい環境で1か月過ごしたことでの緊張のほぐれから、体調を崩す子がいる
- 園生活に慣れてきたことで、新入児と継続児が自然にかかわり合う場面が増えてきた

を

- さまざまな遊びを通して、保育者や友だちとのかかわりを楽しむ
- 戸外で自然に親しむ

内容

- ◎楽しく食事をする中で、自分で食べようという気持ちをもつ
- ◎保育者に側についてもらうことで、安心して眠りにつく
- 保育者に見守られて排泄をする
- 戸外で砂の感触に親しんだり、好きな遊具で遊びながら、友だちとのかかわりをもつ
- 家の人や保育者と一緒にバスで遠足に行くことを喜ぶ

環境構成と援助

- 個々の体調や好みを考慮し、量を加減することなどにより、自分で食べることができたという喜びを一人ひとりがもてるようにする
- 食事や排泄などで衣服が汚れた場合、速やかに着替えをし、きれいになったことへの気持ちよさが味わえるようにする
- 片づけも、遊びの続きのように楽しみながら行えるよう誘っていく
- 遊びの中で、言葉のやりとりを大切にし、友だち同士の交流や保育者とのかかわりを深める
- 遠足の歌をうたったりして期待がもてるようにするとともに、一人ひとりの体調などについて保育者間で連絡を取り合っ、無理なく遠足に参加できるようにする
- 楽しかった遠足のことを話題にしなが、クレヨンでのびのび絵を描けるよう促し、一人ひとりのつぶやきなどの思いを受けとめていく

反省

- 食事…新入児で、園生活に慣れるにつれて、嫌いなものでも頑張って食べようとする子や、逆に嫌いなものは「嫌い」と自分の思いを出せるようになったりする子とさまざまであるが、自分の思いを伝えようとする気持ちを温かく受けとめながら、心の動きを把握し対応していきたい
- 昼寝…安心して遊びこめるようになったことで、食事の後、自然に眠りに入っていける子が増えてきた
- 排泄…男児で立って排泄できない子がおり、母親が心配している。家庭では無理強いしないようすすめ、園で他児のようすを見せたりして、気の向くまで見守ることにしてみる

主な活動

8日(月)
○戸外遊び
(砂場、固定遊具、ボール、三輪車など)

9日(火)

10日(水)
○親子遠足に参加する

11日(木)

○絵を描く

12日(金)

○散歩に出かける

13日(土)

○室内遊び
(ブロック、ままごと、絵本など)

☆友だちとかがわり合う喜びを感じて☆

作る楽しさと壊す楽しさ

新しい環境にも少しずつ慣れ、たいていの子どもたちが、自分の好きな場所で好きな遊びを見つけ、楽しむ姿が見られるようになってきました。平行遊びが主流の2歳児とはいえ、園での生活の一つ一つに、もれなく友だちの存在があります。そしてそれこそが園生活のよきなのだと思います。あるとき、T君が畳コーナーに座って積み木を積んでいました。コツコツと真剣に自分の顔の高さぐらいまで積むと、積み木はほんの少しユラユラしています。すると、違う遊びをしていたS君が、それに気づいて目を輝かせて近づいてきました。側にいた保育者は、どうなるか予測したと思いますが、とっさに見守る姿勢を選んだようでした。

案の定、T君の目の前で、S君は積み木の一番上をチョンッ。T君の積んだ積み木は、見事なほどにガラガラと音を立てて崩れ落ちました。その瞬間のT君の顔！ せっかくなまく積んだのに、という顔で保育者に助けを求めつつも、T君の表情の中にそれだけではないものを受けとったのか、保育者は、「あーあ！」と言。声のトーンからは、「こわれちゃってかわいそう」と、「こわれちゃっておもしろーい」という2つの思いが混ざって聞こえました。

作る楽しさと壊す楽しさ。この、相対する思いのぶつかり合いは、トラブルになりがちですが、どちらも真の楽しさがあることも事実です。保育者の、肯定とも否定ともとれる「あーあ！」の声は、2人の子どもにどう伝わったのでしょうか。

保育者の存在の意味

しばらくすると、T君は再び積み木を積み始めました。そして、そうしながらS君の存在を気に



しているのがわかりました。S君が来るのを待っているようにも見えました。それに応えるように、S君は近づいてきて、また、積み木のとっぺんをチョンッ。

同じように積み木は崩れましたが、今度は2人で大笑い。そのあと2人は、一緒に積み木を積み始めたのです。積んで壊すことに夢中になっている2人は、積み木そのものの楽しさと同じくらい、積み木を介して2人がかかわり合うことに喜びを感じているように思えました。

遊びのイメージは、一人ひとり違います。家庭で、兄弟がいれば別ですが、一人で遊んだり、大人と遊ぶときは、自分の思いが主役としてすすんでいくから、イメージの違いからくるトラブルは見られないでしょう。でも、園ではそうはいきません。あちこちでトラブル続出。言葉の未熟な2歳児は、かんだりひっかいたり、ものを投げたりという危険な場面も多々あることと思います。でも、保育者が一つ一つの場面を瞬時に見極め、待つか仲介するかのタイミングをとりながらそれぞれの思いを認め、寄り添い、ていねいに対応していくことで、友だちの存在が刺激となり、一人ひとりのもつイメージが重なり合い、遊びが何倍にも発展していく楽しさに結びついていくのではないかと思います。

前週の子ども姿

- 暑い日、涼しい日と不安定な気候の中、体調を崩したり、食欲が落ちてきている子がいる
- 同じ遊具を通して、友だち同士でかわり合う姿が見られる
- 友だちの持ってきたおたまじゃくしを見て、言葉を交わし合っている

わらい

- 手洗いをして、きれいになることの気持ちよさを味わう
- 遊びの中で、友だちとのかわり合いを楽しむ

内容

- 嫌いなものも少しずつ食べようとする気持ちをもつ
- 食事や排泄のときに、手をゴシゴシ洗ってきれいにする
- いろいろな場所での遊びを楽しむ
- 遊びの中で名前を呼び合ったり、言葉のやりとりを楽しんだりする
- 海の中の魚やいか、たこなどにイメージをふくらませながら、指に絵の具をつけて、塗る感触を楽しむ
- 生活や遊びの歌(おたまじゃくし、時計の歌など)をリズムカルに楽しむ

環境構成と援助

- 梅雨期の衛生・安全に留意し、床やテラスなどのすべりやすいところにマットを敷いたりして対応する
- 一人ひとりの体調を考慮し、量を加減しながら少しずつ食べられるよう励ましていく
- 水道水の調節の仕方を知らせていくとともに混み合わないよう配慮する
- 保育者が遊びに参加することで、「△△ちゃん、これ貸してね」「はい、どうぞ」などの言葉のやりとりを知らせていく
- 天候により戸外遊びが制限される場合は、室内で変化のある遊びが十分楽しめるよう工夫する
- 絵の具の量や色を十分用意し、一人ひとりが思い思いに楽しめるようにしながら、戸惑う子には友だちのようすを見せ、意欲がもてるまで待つ
- おたまじゃくしの動きを見て、まねをしたり、リズムカルに歌を楽しむようにする

反省

- 食欲の落ちている子が多いため、はじめによそう量を減らし、食べた子から「おかわり」してみる。食べたことを保育者に知らせたくておかわりをしにくる子が増え、結局いつもの量を食べられる子がほとんどだった
- 遊びの中でのトラブルは、ものへの執着から起こる場合と、特定の友だちへの意識から起こる場合があるようだ。それぞれの思いにより、満足できる方法をとる必要がある
- 歌や身体表現をせずじっと見ている子もいるが、満足しているようすなので無理に誘わず、一人ひとりのそのときの楽しみ方を大切にしたい

主な活動

19日(月)

- 室内遊び
 - ・遊戯室(マット、リング)
 - ・絵本、ブロック、ままごとなど

20日(火)

- 戸外遊び
 - ・砂場、三輪車、ボール、遊具

21日(水)

- 室内遊び

22日(木)

- 絵の具遊び

23日(金)

- 室内遊び

24日(土)

- 戸外遊び

☆ 園と家庭が共に子育てをする大切さ ☆

「K君、このごろよくお話するようになったね」「そうそう、さっきなんて××ちゃんが困っているのを教えに来てくれたし、本当、急に言葉がいっぱい出るようになった」「いつからだったっけ」。

子どものお昼寝中、記録を書きながら、保育者同士でふと、こんな会話が始まりました。

K君は1歳児で入園したときから、保育者に世話をされるのを全く嫌がることなく受け入れる代わりに、自分からは何もしようとしない、どちらかというと過保護的に育てられたタイプでした。入園式の日、お母さんよりも、一緒に参加されたお父さんの方がこまめにK君の世話をしているようにも見受けられました。

1歳児クラスのころから、他の子が保育者に世話をされるのをときには嫌がったり、他児とトラブルを起こしたりして自己主張をしているその横で、K君はおだやかに保育者にやってもらうのを待っていました。他児との『トラブル』も、自分の中での思うようにできない『パニック』もない代わりに、そういった『葛藤』を経験することにより他児がどんどん成長していく一方で、K君は2歳児クラスに進級しても、生活や遊びの中で相変わらず依存心が強いままでした。

保育者が、少しずつ手をかけるのを減らし、言葉で励ましたり誘ったりしても、たとえば排泄のときには、「ズボン下げようね」「パンツも下ろしてね」「(便器のところに)立って」「さあ出るかな」……。ひとつひとつの細かい動作でも保育者の指示を待ち、言われてからやるという状態でした。

子どもの成長を共に喜ぶ仲間

お母さんも送り迎えのとき、他の子たちが靴をはいたりするようすを見て感じるものがあつたのか、「いつまでかかっているの」「もう、ダメだねえ」を連発するようになりました。

「先生、この子ちっともしゃべらないでしょう。困っちゃう」「保育園にいればできると思ったのに」とももらされてきました。いろいろなタイプがあるし、K君なりに頑張っていることを伝えていたのですが、6月の初めごろ、お母さんがK君に向かってきついことを言っているのをあまりに見かねた保育者が、「お母さん、K君は頑張っています。だからK君のことをダメな子って言わないでください」と、ちょっと強めの一言を口にしました。

どうやらそのあたりかららしいのです。K君が自分からトイレで排泄をしたり、みんなと一緒に食事をしようとしたりする姿が見られるようになったのは、「先生、食べたよ」「怪獣やっつける」「△△君叩いた」。K君から言葉があふれ出しました。

あのとき、保育者が母親に言ってしまった場面にいたK君。言葉の意味はわからなくても、「先生は自分を認めてくれている」という思いを感じたのかもしれない。

そしてあのとき、ムツとして帰っていったお母さん。自分なりに頑張って子育てをしているのにというプライドと、でも、うまくいかない焦りから、ついつい自分の子をけなすことにマヒしてしまった自分に気がつき、かなり揺れ動いたこととします。でも翌日からは、少なくとも送り迎えのとき、今までのようなきつい言葉はかけず、K君が靴をはくのをじっと待つようになりました。

K君の今の活発な姿は、それがきっかけだったのか、たまたま時期が来たただけなのか、はっきりとはわかりません。でもあの小さな事件によって、その後、お母さんと保育者がひとつ歩み寄り、本音で話ができるようになったことは確かです。園と家庭が役割分担ではなく、共に子育てをし、成長を喜び合える仲間になることの大切さを感じました。

7月第2週 3日(月)~8日(土)

前週の子どもの姿

○かたつむりやかぶとむし、だんごむしなどに関心を示し、興味深く見入ったりそっと触れたりする

○七夕の歌や踊りを楽しむ姿が見られる

七夕

○七夕のつどいを楽しむ(笹飾り、歌、お話、踊り)

○水遊びの楽しさを味わう

内容

○プール遊びに期待感をもち、自分で服を脱いだり、保育者に手伝ってもらいながら水着を着ようとする

○汗をかいたり汚れたりしたら、洗ったり、タオルでふいたりしてきれいにするこで、清潔感を味わう

○プール遊びを通して、水の感触を楽しむ

○保育者や友だちと短冊を書いたりお話を聞いたりして、七夕のつどいを楽しみにする

環境構成と援助

○必要に応じて手を添えながらも、自分で着脱できたという満足感があるような働きかけをする

○「さっぱりしたね」「気持ちいいね」などの言葉がけをしながら、きれいになることの気持ちよさが味わえるようにする

○一人ひとりの水に対する思いを推察しながら、大胆に遊びたい子、おもちゃや容器で水をすくったりして楽しむ子、水が顔にかかるのをいやがる子など、それぞれが満足して遊べるよう、ビニールプールの数や位置、水の量を工夫する

○保育者が楽しく踊ってみせたり、年上の子のようすを見ることで、七夕のつどいに参加してみようという気持ちを引き出していく

○七夕の紙芝居や絵本を通して、お話のおもしろさや雰囲気やゆたたりと味わえるようにする

反省

○トレーニングパンツのため、汗でむれてしまい、脱ぎにくくなったり、お尻がかぶれてしまう子がいる。思い切ってやめてみたところ、さっぱりしたようす。この機会に切り替えができるよう援助していく

○七夕のつどいは、年上の子の雰囲気や圧倒されつつも、にぎやかなようすを保育者と一緒に楽しめる子が多かった

○体調が悪く、プール遊びのできない子は、涼しい場所で保育者と一緒にゆたたりと遊べるようにした

主な活動

○戸外遊び

3日(月)

○プール遊び

4日(火)

○プール遊び

5日(水)

○室内遊び
○短冊を書く

6日(木)

○七夕のつどいに参加する(歌、お話、フォークダンス、音頭)

7日(金)

○戸外遊び

8日(土)

☆ 一人ひとりの楽しみ方を受けとめて ☆

楽しい水遊び

キラキラ照りつける暑い夏。

園庭、屋上やテラスをとこと狭しと、あちこちで各年齢ごとにプール、泥んこ遊び、シャボン玉、色水遊びなど、夏の遊びに夢中になる子どもたちです。

そして2歳児のテラスにずらりと並んだ5~6個のビニールプール。プールの大きさも、水の深さもいろいろで、あとは子どもたちを待つばかり。そこへ目を輝かせた子どもたちがやってきました。

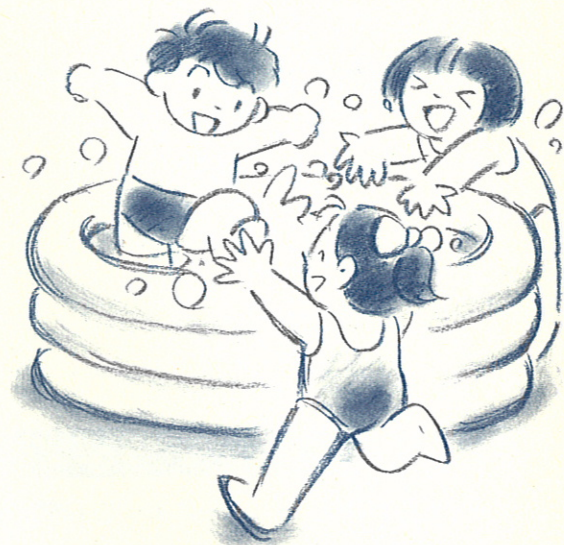
普段なら、保育者に手助けしてもらって待っている子も、なんとか自分で水着に着替え、気に入ったプールを見つけて、さっそく水遊びを始めました。

そのようすをよく見ていると……、「水に触れたり、飛び込んだりして、水そのものの動きや感触を自分の体で味わう子」

「おもちゃや牛乳パックなどの容器を使って、水とかかわることを楽しむ子」

「水遊びを通して、保育者や友だちとふれあうことを喜ぶ子」

……と、水に対するイメージや楽しみ方は、一



人ひとり本当に個性的なことに気づきました。

自分の身体で水の感触を味わい、楽しみたいときには、おもちゃなどはかえって不必要なのかもしれません。遊びに夢中になるために、遊びのために準備したものが余分なものになることもあるということを学びました。

保育者の感性を豊かに

冷たい水、パシャパシャ、ザーザーと音の水、飛び跳ねたり、流れたりする水……。水そのものの魅力や不思議さが2歳児なりに満喫できるよう、保育者は感性を豊かに、一人ひとりの水へのイメージや思いを推察し、共感していくことの大切さを感じました。

自分なりの楽しみ方で十分満足し、保育者や友だちから刺激を受け、共感する喜びが味わえると、子どもたちの思いは、2歳児とはいえだんだんまとまってくるようです。

ときには、「ゆかいなかえる」のような絵本やお話にふれ、共通のイメージをもってプールに入り、ごっこ遊びを楽しむこともいいですね。



8月第4週 21日(月)~26日(土)

前週の子どもの姿

- 家庭保育をした子は、生活のリズムが戻せず、登園時や食事、午睡の前などに泣いてしまうときもある
- いろいろな体験から得た刺激を、保育者や友だちに言葉で一生涯懸命伝えようとする姿が見られる

ねい

- 生活のリズムを取り戻し、園生活の楽しさを味わう
- 遊びの中で保育者や友だちと意思を交わし合う

主な活動

○戸外遊び

21日(月)

○散歩に出かける

22日(火)

○絵本を見る

23日(水)

○プール遊び

24日(木)

○泥んこ遊び

25日(金)

○プール遊び (幼児プール)

26日(土)

○室内遊び

内容

- 自分から尿意や便意を知らせ、トイレで排泄をする
- 嫌いなものも、保育者の励ましにより少しずつ自分で食べる
- 泥や水の感触を存分に楽しんで、泥んこ遊びをする
- ビニールプールで水遊びを楽しんだり、幼児プールで胸まで入り水の深さを味わう
- 紙芝居や絵本でお話の世界に浸り、その余韻を言葉のやりとりやごっこ遊びなどで楽しむ

環境構成と援助

- トイレトーパーを適当な長さに切ってたたんでおき、女児は排泄後、自分でふけるように援助する
- こぼさずに食べたり、食器がきれいになるまで食べることの気持ちよさを知らせていく
- 泥が体につくことを嫌がる子は、砂遊びから行い、友だちのようすを見たり、気の合う友だちに誘われて自然に気が向くまでようすを見守る
- 十分水に親しんだようすを見計らって、ビニールプールの水を深くしたり、幼児プールに出かけたりして、水そのものの感触を全員で味わえるような機会を設けるようにする
- ときにはみんなでひとつのお話を絵本や紙芝居で味わい、そのときの一人ひとりの意思を交わし合うひとときをつくり、余韻を楽しめるようにしていく

反省

- きれいに食べた子の食器を他児に見せたら、席を離れて見に来る子もいて、強い関心をもっているようだった
- 保育者が誘っても泥んこに抵抗があるY子だが、いつも一緒に遊ぶことの多いS子とM子が泥んこになって近くにきたら、手をつないで泥にさわっていた
- ビニールプールでは物足りないようすの子もいたため、全員で屋上の幼児プールに出かけたが、お腹や胸まで浸る水に戸惑う子もいたため、隣にビニールプールを用意し、両方楽しめるようにした
- 夏にいろいろな体験をしたからか、生活の中でも遊びの中でも、言葉が豊富になってきた。みんなでごっこ遊びをする楽しさを大切にしていきたい



初めての「夕涼み会」



今年の夏、園では初めて「夕涼み会」を計画しました。以前は真夏を避け、7月の初旬に「七夕まつり夜のつどい」を園庭で行っていました。梅雨時とあって天候に左右されやすく、スペースも狭かったため、隣の小学校にお願いし、場所を園庭から体育館に移して数年間行いました。しかし、室内の暑さと、雰囲気が出ないこと、また地域に開かれた行事にもしたいという思いがあって、館内だとどうしても活動に制限があり、どうしたものかと思案していました。ちょうどそんなとき、やはり隣にあるお寺から、境内をどうぞというありがたい声をいただけたのです。そこで、さっそく4月から子どもたちとお寺へ散歩に行ったりして境内の雰囲気や親しみ、玉砂利の上を歩いたりしました。「くつがくすぐった〜い!」と言いながら、2歳児も不思議そうにキョロキョロしていました。

盛り上がった「夕涼み会」

そして梅雨も明けた8月当日、昼間の暑さとは若干変わって、涼しい風が夏の夜に吹き始め、いよいよ夕涼み会が始まりました。

鐘つき堂を中心に四方にのぼした提灯にあかりがともり、家族総出で広い境内はいっぱいです。ふだんお寺に來なれているおじいちゃんやおばあちゃんも集まってくださっているようす。地元の業者さんと職員でスーパーボールすくいやかき氷、だんご、ジュースなどの夜店を出し、園児や卒園児のお父さん方を中心にした自警団の方々が周辺道路を整備してくださりました。

0~2歳児は、情緒の安定をはかり、親子で行動することとし、大きな子の踊りの輪に沿ってお家の人と一緒にうたったり、踊ったりしました。卒園児たちも次々に放送席に来て、「先生、こんどは〇〇の曲かけて〜」と、興奮気味。ゆかたを着

て楽しそうに踊りまわってお父さんやお母さんの姿もとても印象的で、大いに盛り上がった夕涼み会となりました。

当日は、みんなのようすをキョトンとして見ていることの多かった2歳児でしたが、夕涼み会が終わった翌日あたりから盛り上がり始め、曲をかけてと行ってきたり、ままごとでお店屋さんごっこが始まったりして、しばらく2歳児なりに余韻を楽しんでいるようでした。

四季折々の園行事を大切に

私たちの園では、年に何回かある、四季折々の園全体での行事を大切にしています。小さな子のいる家庭や、忙しい家庭にとっては大変かもしれませんが、それぞれの楽しみ方があるという思いから、いろいろな参加の仕方をお家の方に提案しています。どの行事でも何はともあれ一番感じてほしいのは、「みんなでする楽しさ」です。みんなでワイワイにぎやかにつどいだけで心がはずむ経験を、幼いうちから一生を通じて味わっていただけたらと思います。

園生活でもよく感じるのですが、子どもたちは、0歳児でさえ自分以外の人がいるだけで、大きな刺激を得ています。いろいろなやりとりをしながら、一緒の部分を見つけて喜び、違う部分に気づいてそれを認め、自分の中に取り込むことで自分の世界を広げていく……。人間って本来こういうものなんだなあ、子どもを見ていると学ばされます。

よりよい保育を追求する中で、「集団」「一斉」という言葉のもつ意味すべてに抵抗を感じた時期もありますが、「みんなでなければならないことができるよさ」、「みんなで一緒に活動する上で、それぞれのよさに気づき、大切に合わせる保育」を工夫していくことの必要性を感じるこのごろです。

9月第5週 25日(月)~30日(土)

前週の子どもの姿

- 食後に尿意、便意を感じ、「ごちそうさま」のあいさつを待てずに、トイレに行く子が多い
- 保育者の話を静かに聞こうとする子が増えてきた

ねんい

- 保育者や友だちと全身を使った遊びを楽しむ

内容

- 保育者に促されたり、尿意や便意を感じて自分からトイレに行く
- 鼻水を自分でかんだり、せっけんで手を洗ったりして、きれいになることの気持ちよさを味わう
- 秋の自然物を見たり触れたりしながら、探索を楽しむ
- 保育者や友だちと一緒に、全身を使ってリズム遊びを楽しむ
- 大きな子の遊戯や競技のようすを見て楽しむ
- 好きな絵を描く

環境構成と援助

- 自分で始末しようとする気持ちを大切に、不十分なところは声をかけたり、援助する
- 一人ひとりに応じて、ちり紙やせっけんの扱い方を知らせ、自分でできたという満足感と気持ちよさを味わえるようにしていく
- 散歩では、安全に十分留意しつつ、初秋の季節の変化が身近に感じられるよう会話を楽しむ
- 運動会のためのリズム遊びにならないよう、遊びの中で遊戯や競技が楽しめるようにする
- 思い思いの絵が楽しんで描けるよう、一人ひとりのつぶやきや思いを温かく受けとめる
- 友だちとのかかわりが活発になってきているので、一緒に使える玩具を配置し、数も必要に応じて減らして一緒に遊ぶ場面を大切にしていく

反省

- 排泄面で、食後に便をもらしてしまう子には、ようすを見てトイレに誘うようにする。ゆうた・はるえ・まりこは自分から便意を訴え、座って排便できる
- ブロック遊びでは剣や車作りがはやっているが、友だちの作っているものに興味を示し、それをまねして作ったり、自分なりに工夫して友だちや保育者に見せたり、戦い合ったりして遊ぶ姿が見られるようになった。ブロックの取り合いでけんかになることもあるが、友だちに分けてあげたりする姿も見られ、驚くと共に、その気持ちを大切にしていきたい
- なぐり描きだった子が丸や形を描き始め、描きながら自分の思いをさかんに発するようになる。子どもの思いやようすをできる限り記録する

主な活動

- 室内遊び
- 絵を描く

25日(月)

- 散歩にてかける
- リズム遊び

26日(火)

- 戸外遊び

27日(水)

- 戸外遊び

28日(木)

- リズム遊び
- 室内遊び

29日(金)

- 室内遊び

30日(土)

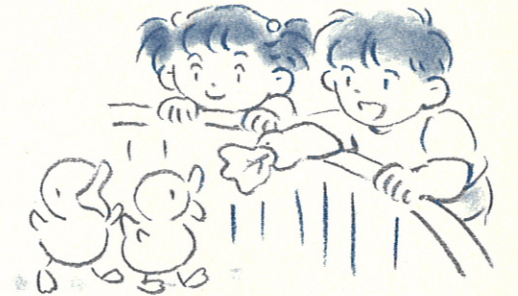


命を大切にする心を育む



この夏、いろいろな生きものや自然とかかわった子どもたち。生きものを前にしたときの2歳児は、本当に興味深いものがありますね。

園庭の隅に並ぶ植木鉢の下はだんご虫のすみかだと、代々受けついでいる子どもたち。シーズンになると、年上の子は誰からともなく砂場のバケツとスコップを手に鉢に群がります。そのようすに興味しんしんでのぞきこむ2歳児が数人。そしてお兄さんたちが室内の活動に入るのを見て、今度は自分たちが、空いたバケツをかかえて、いそいそと植木鉢へ向かいます。そっと鉢を動かして、「いた!」「いない!」「つかまえて!!」と大騒ぎ。「あそこにおけるゾー」と友だちに知らせて引き連れていく姿は、まるで“だんご虫探検隊”でした。そんな思いでつかまえただんご虫をみんなで逃がすとき、まー君ははじめ嫌そうな表情でしたが、保育者が「おうちに帰してあげようね」と声をかけると、しばらく考えて、子「おかあさん、まっとる?」保「まってるよ」子「ただいまっていう?」保「そうね、おかあさん、おかえりっていうよね」子「まーくんのママもおかえりっていうよ」こんな会話をしながら納得したのか、「さよなら、またね」と手をふって保育室に戻りました。



また、強くつまみすぎて弱ってしまっただんご虫を心配そうに持ってきたたか君に、「あっ、病気みたいだね。そーっと草のおふとんに寝かせよう」と言うと、真剣な顔で草の上のせていました。

生きものとのふれあいの中から

子どもたちはまるでその生きものになったみたいに、自分の気持ちを重ね合わせてしまう天才です。サークルの中のおひるに刻んだ野菜をあげながら、「おいしいよ、食べてごらん」と話しかけるえっちゃん。一生懸命のあまり、つい自分の口に入れようとして、そばにいた保育者に教えられる場面も。

おもちゃと違って、自分の思い通りになりそうでならないもどかしさで、生きものは子どもにとってとても魅力あるものようです。同時に、生きものに自分たちと同じ気持ちがあるかと信じて疑わない子どもたちの感性を保育者として大切に受けとめたいと思います。

“三つ子の魂百まで”のこの時期、生きものへの興味を、いきなり「足は何本」「羽は何枚」などといった知識につなげてしまうのではなく、「かわいい」「かわいそう」という愛情や、「がんばってるね」「すごい」などの尊敬の気持ちでたっぷりふれあう体験ができれば、成長する上で、自然も、他人の命をも、そして自分の命も大切に考えていけるのではと、日々の保育の中で願わずにいられません。



11月第3週13日(月)~18日(土)

前週の子ども姿

- 衣服をたたんだりボタンのかけはずしをしたりすることに興味をもち、意欲的に行っている
- 遊びの中で自分の思いをうまく伝えられず、衝突が起こったりする

ねらい

- 身のまわりの簡単なことを意欲をもって行う
- 友だちと一緒に好きな遊びを楽しむ

主な活動

○戸外遊び

13日(月)

○戸外遊び

14日(火)

○室内遊び

15日(水)

○粘土、ブロック

○絵を描く

16日(木)

○戸外遊び

17日(金)

○室内遊び

18日(土)

内容

- 園服を脱いだあと、保育者と一緒にたたむ
 - ・裏表が逆になった園服を保育者に手伝ってもらいながら直そうとする子、気にせずそのままたたむ子がいる
- 友だちと一緒に楽しく食事をする
 - ・箸を持ったまま後ろを向いたり、席を離れたりする子がいる
- 好きな遊びを見つけ、遊びながら友だちとのかかわりを楽しむ
 - ・短い時間だが、友だちと協力して砂山をつくらうとする姿が見られる
 - ・遊びが持続せず、次々と替えたり、遊具の取り合いが起こったりする
- 家の人のことを話題にしながら、絵を描く
 - ・「お母さんね、ご飯つくる」などと保育者にさかんに話しながら描く

環境構成と援助

- 袖をトンネルに見立てたり、楽しみながら衣服のたたみ方を伝える
- 箸を持つことへの興味を大切にし、危ない場面ではそのつど声をかける
- 一人ひとりが好きな遊びを見つけられるよう配慮する。友だちとかかわって遊んでいる場面では、子どもの思いを保育者がそばでみきわめ、必要なものを用意したり、必要に応じて思いを仲介したりする
- 遊びが持続しない子は、その原因が何にあるのかを探り、援助をする
- 遊具の取り合いなどのトラブルでは、お互いの思いを仲介しながら、順番などのルールも知らせていく
- 絵を描くときには一人ひとりのいろいろな思いを複数の保育者でいねいに受けとめ、楽しい雰囲気になるように心がける

反省

- 自分できれいにたためたことに満足して喜ぶ姿が見られる。友だちのそういうふうすに刺激され、自分もやってみようとする子もいて、保育者に「ここは?」「これでいい?」と聞きにきたりする
- 三輪車の取り合いになることがある。「園庭に丸を描き、そこを1周したら交代」、また「2人乗りをしている子は2人で交代」などと簡単なルールをつくることで満足して乗れた。月齢の早い子は簡単な鬼ごっこのような遊びを楽しむようになり、鬼になるのを嫌がっていた子も、年上の子たちが鬼になっているのを見て、自分になろうとしたりするようになった
- 絵ではお母さんを一番に描く子が多い。また人の顔に関心をもち、「お父さんのおひげ」「おじいちゃんのめがね」などと話しながら描いていた



子どもが輝くとき



今日は「なかよし保育」の日。3~5歳児が園中を自分たちの遊び場として、好きな場所へ出かけて遊ぶ日です。もちろん2歳児のクラスにも遊びにきます。子どもたちにとって年上の子たちは興味しんしんのようで、保育者から今日がその日だと聞くと、おやつもパクッとたいらげ、ワクワクそわそわ。

そして、それぞれのクラスに3~4人ぐらいつつ、お兄さんお姉さんが入ってきました。ゆりちゃんとひで君のお兄ちゃんたちの顔も見え、兄弟はお互いを見つけあうとニコッと手をつなぎました。この2組は兄弟ぐるみでなかよしのようで、さっそく4人を含めた数人の子で粘土遊びが始まりました。

2歳児だけの粘土遊びなら、ゆっくりじっくり時間が過ぎていきます。「せんせー、これー」と、自分たちなりに握ったり丸めたりつまんだりしてできたものを保育者に見せようとします。ところが今日はそうはいきません。ひで君のお兄ちゃんのしょう君は、はりきっていろいろなものを次々に作ってみんなに見せてくれます。2歳児たちは、しょう君の手つきやできあがったものをあざんとした顔で見つめ、何とかまねしようとします。その先からしょう君はまた違うものを作り始め…。次々と受ける刺激に、2歳児たちの気持ちが加速度的に高まっていくのがわかり、異年齢の子とかわるこの意義をあらためて感じました。



しょう君は、5歳児クラスの中ではなかなか自分の思いをうまく表せず、遊びも他児にリードされ、自分の思いが活かされていないことを不服に思っているようなところがある子でした。しょう君にとって2歳児のクラスは、自分の存在感を味わうことができる居場所となっているのでしょうか。

保育者の見守る姿勢の大切さ

そんなふうには思っていたところへ、ある2歳児がいつものように「先生、これー」と保育者に見せにきました。保育者もいつものように「わあ、まるいおだんご、パクッ」と返しました。すると、ほかの2歳児もわれ先にと「これー」「できたよ」と保育者の方へ思いを向けてしまったのです。しょう君は何となくおいていかれたような表情を見せ、保育者はそんなしょう君のようすに「しまった」と思い、少しずつ手を引こうと試みました。保育者がその場から離れた後、またしょう君の声が聞かれるようになったものの、先ほどの、集団の中でみられたリーダー的なしょう君の存在感は薄くなっているようでした。

同じ年齢の中でも一人ひとりさまざまな発達段階があること、また異年齢の子とかかわりあうことは、自分の存在感を味わうことのできる重要な機会になっていることもあらためて感じました。同時に、一人ひとりが存在感を味わいながら遊びを展開していくためには、保育者が子ども集団の性質をみきわめ、その時々によって対応を変えていく必要があることも痛感しました。

遊びも、人との関係も、次々に生まれては消えて(変化して)いくはかない瞬間の連続の中で、そのときそのときに子どもが達成感や存在感をいかに味わうことができるかは、そばで見守る保育者の姿勢に大きくかかっているとこのとき思いました。

12月第2週 4日(月)～9日(土)

前週の子どもの姿

- ほとんどの子が園服のボタンのめはめはしをできるようになる
- 寒くなり、手洗いを嫌がったり、洗わずにすませてしまおうとする子もいる
- 友だち同士で好きな歌をうたったり踊ったりして楽しむ

わらわ

- 手洗いや鼻かみをすすんでする
- 保育者や友だちと一緒に表現遊びを楽しむ

主な活動

- 戸外遊び (三輪車、ボール)

4日(月)

- 表現遊び (「てぶくろ」、ペープサート、歌)

5日(火)

- 散歩に出かける

6日(水)

- 戸外遊び (追いかけて、おおかみさんいまなんじ)

7日(木)

- 表現遊び (「てぶくろ」)

8日(金)

- 戸外遊び (追いかけて、ボール遊び)

9日(土)

内容

- 食事の前や排泄後に手洗いをすすんでする
 - ・衣服によって袖をまくれない子や、指先をぬらすだけの子もいる
- 便意や尿意を保育者に伝え、自分からトイレに行く
 - ・遊びに夢中になり、もぞもぞしたままめらしてしまう子もいる
- なるべく戸外に出て、全身を使って遊ぶ
 - ・追いかけて楽しむ子、寒いからと外に出たがらない子もいる
- 表現遊び「てぶくろ」の中で、うたったり言葉を話したりして楽しむ
 - ・友だちと一緒に元気にうたったり、話したりする
 - ・保育室ではよいが、遊戯室の舞台に立ち、みんなのしている前では戸惑う子もいる

環境構成と援助

- 保育者や友だちと一緒に手洗いを「見立て」で行い、袖まくりや手のひら、手の甲をこすり合わせることを知らせる
- 排泄は、自分から知らせることができたら大いにほめ、自信につなげると同時に、間に合わないようなときは速やかに促す
- 全身を使える活動的な遊具を配置する
- 保育者が仲立ちになり、簡単なルールのある追いかけてこのスリルや楽しさが味わえるようにする
- 外に出たがらない子は、ようすを見て衣服の調節をしながら誘ってみる
- ペープサートなどでお話の楽しさを知らせ、好きな歌を取り入れたり、言葉を言いやすく工夫して、イメージをふくらます楽しさが味わえるようにする

反省

- ふだん手洗いを嫌がるゆうじ、ひろきも、「キュッキュッキュッ」「ゴシゴシ」とみんなの前でやって見せ、うれしそう。本当の手洗いで嫌がらずにやるようになった
- なみは遊びに夢中になり、ギリギリまでトイレをがまんすることが癖になっているようなので、ようすを見て早いうちに声をかけていきたい
- 遊具の取り合いでけんかになる子はほぼ決まっている。互に関心があるようで、自分たちで解決できることもあるので、ようすを見て対応する
- みんなの前での表現遊びも考えていたほど戸惑うことなく、うれしそうにやっていた。年上の子が舞台でやっているのを前々から見ていて、自分もやってみたいという思いが育っていたようだ

☆ 自ら遊びの中で成長する力を大切に ☆

「ごはんできたよ、はい、どうぞ」「パクパク。おいしいねー」、「見立て」や「つもり」遊びができるようになり、2歳児はさかんにままごとをします。1歳児のころは、ままごとのスプーンも本当に口につっこんだり、おもちゃのおだんごやハンバーグも平気でなめたり、かもうとしたりするので、小さなものなどは飲み込んだりする危険があり、とても身のまわりには置けなかったのが、いつの間にか「見立て」で遊ぶ楽しさを覚えます。



うになりました。単純なことを本当に飽きもせず何度も繰り返しては満足しているなおちゃんに、2歳児の姿を実感させられました。

遊びを作り出す楽しみを知る過程

はじめはまねから、保育者や年上の子のやるようすをじっと見て、自分の中に取り込もうとします。たとえば、保育者がトレイの上にごちそうを並べれば、こちらが感心するくらい、まったく同じものを同じ位置に並べるなおちゃん。保育者が「はい、ごはんだよ。どうぞ」と言ってわたしているのを、言葉まで同じようにまねをして持ってきます。「わあ、おいしそう、いただきます。パクパク」と食べるようすを満足そうにじっと見つめ、トレイを返すと、「もう1回？」と聞きながら、繰り返し催促してきます。まねから何度も繰り返すうちに、はじめはトレイにごちそうをうまく並べられなかったのが、指先を使ってできるようになり、またトレイに並べて今度は保育者のところへ持ってくるまでにこぼしたりしていたのが、トレイを持って、保育者のいる方向とトレイに目を配りながら、バランスよく歩くことができるよ



でも、注意して見ていると、繰り返しの途中から、はじめの満足そうな表情とは違う変化が見られてきました。視線が前ほど集中していないのです。とうとう飽きたかな、と思ってようすを見ると、なおちゃんは保育者の間を往復している間に、ひも通しの細いひもが床の上に丸まって落ちているのを目にとめたようです。それを手にとって、あいている茶わんに何気なく入れたとたん、なおちゃんの表情がパッと変わりました。そして、今までにないうれしそうな顔で「はいっ、ラーメンできたよ！」と持ってきたのです。

なおちゃんは、保育者のようすに興味をもち、まねをする楽しさを味わい、繰り返して満足感を味わううちに、次第にそれだけでは満足できなくなったようでした。でもその不満足感を味わうことによって、いよいよ本当の自分で遊びを作り出す楽しさを味わうに至ったのだと思います。同時にこれはどんな遊びにも共通する心の道筋ではないかと感じました。絵を描くこと、ものを作ること、砂遊び、リズム遊びなど、いろいろな刺激を受けることではじめはまねをして楽しみ、そこから自分なりの楽しみを見つけだしていくのです。

一人ひとりの心の揺れ動きを大切にしていくことで、2歳児なりに自ら遊びの中で成長する力をもっているということを、今回の場面で改めて知ることができました。

1月第3週 15日(月)~20日(土)

前週振り返り

- 園での生活リズムに戻り、元気に登園しているが、体調を崩したり、薬を持ってくる子もいる
- 戸外でも寒さに負けず元気に走り回ったり、好きな遊びを楽しんだりしている

ねい

- 寒さに負けず、元気に過ごす
- いろいろな友だちと遊ぶ楽しさを味わう

主な活動

- 散歩に出かける

15日(月)

- 楽しい雰囲気の中で食事をし、食べ終わったら自分で食器を片づける
 - ・箸を使って上手に食べる子が増える
 - ・友だちとおしゃべりをしていて、食べるのが遅くなる子もいる
- 布団の中で静かに眠る
 - ・友だちとごそごそして、落ち着いて眠れない子もいる
- 自分で作ったたこを戸外であげて楽しむ
 - ・油性ペンでビニールに描くことをおもしろがる
 - ・走ると持ったたこが上がることを喜び、走り回る
- わらべうたで、簡単な集団遊び(「あぶくたった」など)を楽しむ
 - ・スリルのあるところを何度もくり返しやりがる
 - ・友だちのようすを見て、少しずつ遊びに入ってくる子もいる

16日(火)

- たこを作る(ビニールに絵を描く)

17日(水)

- たこあげをする

18日(木)

- 戸外遊び(たこあげ、遊具ほか)

19日(金)

- 集団遊び(「あぶくたった」)

20日(土)

- 戸外遊び(追いかけっこ、三輪車、固定遊具)

内容

環境構成と援助

反省

- 握り箸でも頑張っていることを認め、上手に持っている子のようすを見せながら、徐々にお皿やお椀の持ち方を知らせていく
- 布団を敷く間隔を考慮して、静かに眠れるようにする
- 油性ペンの扱い方をあらかじめ知らせ、手につかないように気をつけることができるようにする
- 作ったもので遊ぶ楽しさが十分に味わえるよう、言葉をかけたり、すぐに直したりできるように、テープやたこ糸、はさみを準備する
- ふだんからわらべうたなどを保育者がうたったりして親しむことで、集団遊びにスムーズに入っていけるようにする

- 啓太は食べるおかずの種類によって握り箸になることがあるが、無理強いせず、食べようとする気持ちを大切にしている
- ひとつのたこを作って、あげることが楽しい子と、いくつもたこを作りたい子がいた。材料をもっと多く用意すべきだった
- 「あぶくたった」の中の「トントン、何の音?」「おばけの音!」で逃げるときに、恵美、佐也が可が恐がり、くり返しやるのを嫌がった。みんなの勢いにおされたようなので、逃げるときに保育者が手をつなぎ、楽しさが感じられるようにした。また、スリルを喜ぶ子たちは、自分たちで「トントン、何の音?」「〇〇の音」と言い合い、子ども同士で言葉のやりとりを楽しんでいた

★ 食べる楽しさを味わって... ★

「先生、うちの子野菜が嫌いなんです」「ごはんはほんの少ししか食べません」。4月当初、親との懇談の中で、また、入園前の家庭状況書から、こんなようすがうかがわれました。

確かに、それぞれの家庭環境の中で育った子どもの食事のようすは、好み、量、食べ方のどれをとってもとても個性的な(?)ものでした。特に、新入児は、母親とは違う人からもらう食事というものに心を許すまでに時間のかかる子もいました。それぞれの子どもの食べることへの思いを、ありのままに受けとめるところからはじめ、信頼関係を育み、一人ひとりを励ましたり援助したりしてきました。

「ぼくも食べてみようかな…」

そんな折り、野菜嫌いで特ににんじんがダメというまーくんのお母さんからこんな話を聞くことができました。

お休みの日に親戚の家でごはんを食べたとき、にんじんが出て、まーくんはそのとき、「にんじん食べてみようかなあ」と言ったそうなのです。家族中が驚いて見つめる中、まーくんは、「保育園で〇〇くんが食べてたよ。先生がね、にんじん食べるとうさぎさんみたいにぴょんぴょんとべるって」などと言って、にんじんにじっと向かっていました。結局は、やっぱり食べられなかったそうなのですが、お母さんは、今までどんなに働きかけて



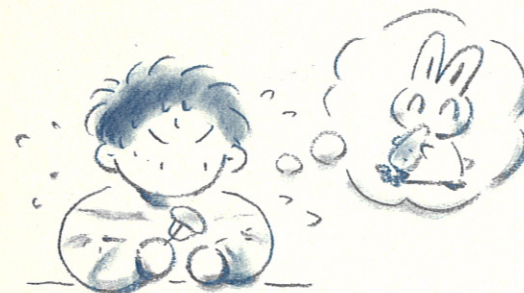
もそっぽを向いていたまーくんが、そのように思ってくれただけでもすごうれしかったと話してくれました。

自分の好みや食べ方が、より確立されてくる3歳児と比べ、2歳児は、苦手なものや食べ慣れなかったものでも、励まされたりしながら何となく気が向いて口にすると、すんなり受け入れられる柔軟性をもっているようです。

そして1歳児のときよりも、ほかの子を意識する心が育ち、ほかの子が頑張っている姿を見て、自分も認めてもらおうと、食べようとしていきます。

外からのものを受け入れる柔軟性、そして社会性の芽生えからくる2歳児のもつ力の大きさに、食事の面でも触れることができました。同時にその力を発揮できるような環境(雰囲気)の大切さを改めて感じました。

12月から食事のときに、保育者のお手伝いをしてくれるお当番さんを子どもたちが順番にすることにしてみました。うれしそうにエプロンをつけ、机をふいたり、コップを配ったりする2人のお当番さんを見て、どの子も興味しんしんで、「早くぼくの番がこないかなー」と待っているようです。「お当番さんはお仕事があるもん、頑張ってお食べなくちゃ」と友だちと話している子もいます。「食べることは楽しい」と感じ、そして「みんなで食べる楽しさ」を2歳児一人ひとりが味わってほしいと思います。



2月第2週 5日(月)~10日(土)

前週の子どもの姿

○クラス（1組、2組）の枠を越えて行き来する姿が見られる
○歌やお話に興味や関心が広がり、「うたって!」「読んで!」と保育者にせがむ子が多くなる

ねい

内容

○簡単な身のまわりの始末をきちんとする（かばん、園服、タオルなど）
・困っている子に気づいて助けてあげたり、保育者に知らせたりする
・早く遊びたくて、雑になる子もいる
○自分で腕まくりをして、手洗いをする
・袖口がぬれてしまったり、水が冷たいため、おそろかになる子もいる
○友だちや保育者と一緒にうたったり踊ったりすることを楽しむ
・友だちを意識してはりきったり、異年齢の子の踊りに興味をもつ
○戸外で思い切り体を動かして遊ぶ
・三輪車の取り合いでトラブルが起こる
○クレヨンで好きな色をぬる（ちょうの顔や羽のもようを描く）

環境構成と援助

○身のまわりの始末や生活面での手伝いなど、できそうなことはやってみようと思えるような言葉かけをする
○友だちを助けてあげようとしている子には、できないところを保育者が補いながら、友だちにかかわろうとする気持ちを大切にしてい
○冷たい水を嫌がる子には、その冷たさに関心がもてるような言葉かけをし、すすんで手洗いができるように促す
○全身で踊りを楽しむ子、好きなところを特に見つけて楽しむ子、友だちと一緒にやろうとする子など、さまざまな姿を受けとめる
○数に限りがあるおもちゃや遊具は、なるべくたくさんの子が楽しめるよう、保育者が仲立ちとなって、順番や交代を知らせていく
○自分の作ったちょうが保育室の壁面に飛ぶ（飾られる）おもしろさを味わえるよう、子ども自身が自由に飾れるようにする

反省

○遊びたくて身のまわりの始末をあわててやってしまう理沙や悠輝は、個別にきちんとすることの意味を伝えながら、遊ぶ時間も確保する
○ほかの子を助けようとしている亜実のことを、ときにはみんなに知らせたりして、その気持ちを他児にも気づかせていく
○袖口にボタンがついた衣服だと子どもが腕まくりをしにくいと、あらかじめボタンをはずし、自分でやろうとする意欲を損なわないようにした。また、保護者にも衣服について協力を求めるようにした
○前回の遊戯会は保育室で行ったため、狭くて一人ひとりが楽しみきれなかったようなので、遊戯室を使うことにした。広くなり、子どもたちも保育者も他児のようすをよく見ることができ、満足していた

○友だちや保育者と一緒にリズム遊びを楽しむ

主な活動

○絵本を見る

5日(月)

○戸外遊び
(追いかけっこ、ボール遊び、遊具)

6日(火)

○リズム遊び
(「バナナのもりのピクニック」、
「楽しいきかんしゃ」)

7日(水)

○ちょうを作って遊ぶ

8日(木)

○リズム遊び
(「バナナのもりのピクニック」、
「楽しいきかんしゃ」)

9日(金)

○散歩に出かける

10日(土)

☆ 子どもの心の成長を見つめて… ☆

2月末の遊戯会は、保育者にとって一人ひとりの1年間の成長を見つめられる機会となっています。不安そうに新しい環境に入った4月から、保育者との信頼を得、ともに笑い合える友だちを得、喜びを保育者と分かち合い、認められる満足感をも味わえるまでに育ってきた子どもたちは、2歳児なりのイメージで遊戯にのめり込み、またみんなの前で演じることをとても楽しみにしています。

そんな中、2人の子どものエピソードを紹介したいと思います。2歳児の純くんと、3歳児の陽介くんですが、2人とも2歳児の4月に入園してきたころ、少し気になるころがありました。

純くんはこだわりが強く、新しい環境になかなかなじめず、周囲のざわめきにおびえるようにし、保育者がそばに近づいただけでパニックを起こしていました。少しずつ特定の保育者にはかかわるようになりましたが、青いカラー積み木にこだわって、みんなが楽しそうに遊んでいる中、積み木に乗って窓から外を何十分も眺めたりする日々が続きました。

一方、陽介くんは入園当初からお母さんが迎えに来るとパニック状態になり、迎えを待ちわびる他児とは大きな違いがありました。お母さんともやりとりを重ね、徐々に落ち着いてきたものの、今度はまわりの子との間で思うようにならないと、「ちがうの」とパニックを起こすようになりました。

そんな2人の共通点は、どちらのお母さんも自分の子に対して、「この子はこういう子なんです」と、戸惑うふうでもなく、あっさりしているところでした。それとなく母子関係を探りつつ、とにかく園生活の中でそれぞれの心の拠り所になるものは何かを見つけようと努めるようにしました。

ありのままの子どもを受けとめて

そのうち純くんは、生活の中で何か新しいこと

に出会ったり、自分のすることを拒否されると激しいパニックを起こすことがわかりました。そこで禁止の言葉は使わず、次の方向へ導く言葉かけを工夫すると、純くんなりに自分をまるごと受けとめてもらっていると実感できたのか、少しずつまわりを気にするようになり、特定の子にはかかわろうとしたり、嫌がっていたこともみんなと一緒にだと受け入れるようになりました。純くんは、遊戯会という大きな行事の雰囲気戸惑っていましたが、保育者の言葉にも耳を傾けることができ、本番もふだん通り楽しそうに自分を出せたようで、1年の心の成長を感じることができました。

陽介くんの場合は、保育者に対し一方的に話したり、自分の思いが通じないとパニックを起こす状態は3歳児クラスになっても続いていました。

ある日の降園後、陽介くんが園で種まきをしたプランターをお母さんと一緒に見ていたとき、土の上をだんごむしがはっているのを見つけました。芽が出るように…と思ったのか、一生懸命そのだんごむしをどかさうとすると、お母さんはあっさり「手が汚れるからダメ!」。案の定陽介くんは大パニックを起こし、プランターをけとばしてしまいました。

「この子はこういう子なんです」という同じ言葉でも、ありのままを受けとめようとしている純くんのお母さんと、逆に突き放してしまっている陽介くんのお母さんの接し方には大きな差を感じました。

陽介くんは、今年の遊戯会に向けて、あまり意欲的に取り組めないようすでした。楽しんでいるみんなから何となくおいていかれたような顔をしている陽介くんに、「先生、陽介くんのことずっと見てるからね。がんばって」と、思わず声をかけると、保育者をじっと見つめてうなずく姿がとても印象的でした。

3月第3週 12日(月)~17日(土)

前週の内容を振り返る

○遊戯会で異年齢児の遊戯のようすを見て「やってみたい」と関心をもち、保育者に思いを伝えたり、まねて踊ったりしている
○気の合う友だちと手をつないだり、隣同士で座ったりしてかわり合う姿が見られる

ねえい

○友だちと一緒に、進級することに喜びや期待をもつ

内容

○箸を使って保育者や友だちと食事を楽しむ
・保育者に励まされることで、嫌いなものでも少しずつ食べようとする
・姿勢が悪く、すぐこぼす子もいる
○排泄後の身なりを整える
・ズボンの前後を聞いてくる
○散歩に出かけて春の自然にふれたり、開放的な雰囲気を味わう
・見つけたものを保育者に知らせたり、友だち同士で言葉を交わし合う
○戸外で体を思い切り動かしたり、砂場でじっくり遊んだりする
○お別れ会に参加して、卒園児とあいさつを交わす
○言葉のやりとりをしながら絵を描く

環境構成と援助

○作ってくれた食べものを残してしまうことへの「もったいない」という気持ちを伝え、量を加減しながら残さずに食べられるよう励ましていく
○トイレの順番を待つときは、排泄している子のじまにならないよう、並ぶ位置などを知らせる
○衣服の前後や表裏に興味をもつ子には、一緒に手を添えて直しながら、知らせていく
○歩くペースに合わせて、複数の保育者が分担して対応し、一人ひとりがゆったりと散歩を楽しめるようにする
○子ども同士のやりとりを見守り、2歳児なりに問題を解決する力が養えるようにする
○卒園の意味をわかりやすく伝え、いなくなる大きな友だちに「ありがとう」という気持ちをもてるようにする
○いつも近くにいる友だちや保育者の顔を話題にし、思い思いに描きながら、目や口に興味をもてるようにする

反省

○友だちとおしゃべりを楽しみながら食事ができるようになってきた反面、おしゃべりが主になり食事がすまないようすも見られる。保育者も会話に参加しつつ、食事を促していく
○便器が冷たいため、座るのを嫌がる女児もいる。便座にシートをのせ、冷たさをやわらげるようにする
○戸外遊びの三輪車で、初めは取り合いになることもあるが、以前のように泣いて怒るようなことはあまりなくなり、「後ろに乗っていい?」「あとで代わってね」などと子ども同士でのやりとりが見られた
○「お兄ちゃん学校行っちゃうの?」と、今まで遊んでくれた年上の子について関心をもつ言葉が聞かれた

主な活動

12日(月)

○戸外遊び
(固定遊具、追いかけっこ、三輪車、砂場など)

13日(火)

○絵を描く

14日(水)

○散歩に出かける

15日(木)

○お別れ会に参加する

16日(金)

○散歩に出かける

17日(土)

○戸外遊び
(平均台、迷路遊び、砂場など)

★ 一人ひとりの感性を大切に受けとめて... ★



「先生、一緒に踊ろう!」。2月に遊戯会を経験し、子どもたちは自分たちの曲だけでなく、年上の子の遊戯の曲にも興味をもち、次々と見よう見まねで踊りを楽しんでいます。

そんな中で、みんなと一緒に踊ろうとせず、保育者のそばでじっと友だちのようすを見ているひでくと、盛りあがっているみんなに背を向けて、絵本を見ているのりちゃんがありました。遊戯会ではみんなに交じって踊っていたけれど、あまり気が向かなかったのかな、と思っていたところ……。

ひとしきり踊って満足した子たちが、次の遊びに移っていったため、曲をかけるのをやめたたん、いままで絵本を見ていたのりちゃんがさっと保育者のところにきて、「お歌もう1回」と催促したのです。そこで再びさっきの曲をかけると、のりちゃんは満足そうに、また絵本に向かい始めました。そしてひでちゃんもまた、保育者のそばでみんなのようすを見て楽しんでいるようでした。

保育者や友だちと曲に合わせて踊ることが、楽しんでいるかどうかの評価だと、ともすと思っていた私たちは、2人の姿から、楽しみ方はそれぞれいろいろなんだ……ということ学びました。とにかく体を動かす子、じっと見てから動き出す子、見た目には関心がなさそうな子。表面的な態度や目標を一律なところに定めるのではなく、体験してほしいことをひとつの「きっかけ」として子どもたちに差し出し、そしてそこでの一人ひとりの思いや楽しみ方を保育者が受けとめることで、大きな意味での“みんなで一緒にする楽しさ”を体験できるのだと感じました。

自分なりの表現が始まる時期

1年を通して自分のことが少しずつできるようになり、身のまわりのもののしぐみに興味をもつようになった2歳児たち。0~1歳児のときに、

家庭や園でいろいろなかわりを経験し、さまざまな刺激を取りこみ、それを土台に発信を始めた2歳児。一人ひとりの個性豊かな言動に日々ふれていると、2歳児は自分なりの表現が始まる時期であるということをおぼわすにはられません。

冬の寒い日に排便をすませ、あわてて保育者に、「先生、うんちが燃えてる!」と、湯気の立つ便を見せようとするよっちゃん。なかなかキャベツを食べてくれないうさぎに、「おいしいよ、食べてごらん」と言いながら、自分も食べようとしてしまふさちゃん。前後を反対に着たトレーナーは、首をぬかなくても腕だけぬいで、ぐるっと回せばいいことに気づき、それをズボンでも実行しようとして、片足を入れたまま四苦八苦しているりょうくん。テレビでディズニーランドの映像を見た次の日から、毎日のように「きのうディズニーランドへいったよ」と、うれしそうに話すあきちゃん。どれも、嘘だとは捉えてはいけない、2歳児たちの純粋な思いです。

まだ、自他の区別がつききらない、「未分化」な状態だからこそ、すごい吸収力を日々感じます。それは、分化してしまったら、逆に衰えてしまうかもしれない、成長の原点とも思えます。

そんな豊かな感性を発信し始めた2歳児と生活する上で、保育者は子どもの表面的なものだけを捉えるのではなく、一人ひとりが見つめているもの、イメージ、表現の仕方を受け入れ、同時に保育者自身が、子どもにとって感性豊かな存在になることの大切さを改めて感じました。2歳児とかわかることのできたこの1年は、保育者として、2歳児から学ぶことの多い1年でもありました。